

# 6年産

## 「南瓜（パルシステムエコ）」栽培基準

品 種 名	メルヘン・特濃こふき5.6
目標粗原反収	1,650kg
目標製品反収	1,400kg
播 種 時 期	4月上旬～5月下旬
定 植 時 期	5月中旬～6月下旬
収 穫 時 期	8月上旬～10月下旬

	1月			2月			3月			4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
基本作業										播 種						中耕・手取除草																	
										育苗・苗ずらし						防 除																	
										圃場準備・施肥						収穫作業																	
										定 植						キュアリング																	
										被 覆			整枝・着果管理																				

### 【施肥基準(Yes! Clean基準上限)】

肥料名	施用量 (kg/10a)	要素量(kg/10a)			
		窒素		リン酸	加里
		N	ON		
S 131	64kg	6.4	—	19.2	6.4
① 発酵ケイフンペレット2号(有機質肥料)	150kg	—	4.5	4.5	4.5
合 計		10.9		23.7	10.9
② DdS036 (有機質肥料)	110kg	5.06	5.94	14.3	6.6
合 計		11.0		14.3	6.6

### 【Yes! Clean窒素施用量基準】

※ 堆肥が施用できない場合は、必ず上記の「有機質肥料」を基準量施用する。

- ① 総窒素施用量(化学肥料+有機質肥料)は最大で **11kg/10a**
- ② 化学肥料施用量は最大で **6.4kg/10a**
- ③ 有機質肥料施用量(最大) = 11kg - 化学肥料施用量
- ④ 上記の他に、堆肥による施用窒素量は最大で3kg/10a

### 【農薬使用基準】

項目	適用病虫害名	農薬名	使用濃度 (倍)	10a当り薬量 (水100ℓ)	適正使用基準		成分 カウント	RAC コード
					使用時期	回数		
殺虫剤	ハダニ類	ニツラン水和剤	2,000	50g	前日	2	1	I:10A
	アブラムシ類	モスピランSL液剤	2,000	50ml	前日	2	1	I:4A
殺菌剤	うどんこ病	イオウフロアブル	500	200ml	—	—	—	F:M2
		ベルコート水和剤	1,000	100g	7日	4	1	F:M7
	うどんこ病・つる枯病	アフエットフロアブル	2,000	50ml	前日	3	1	F:7
	うどんこ病・黒斑病 つる枯病	ダコニールエース	1,500	66ml	7日	3	1	F:M5
	うどんこ病・べと病	ストロビーフロアブル	3,000	33ml	前日	3	1	F:11
	果実斑点細菌病	コサイド3000	2,000	50g	—	—	—	F:M1
	うどんこ病・べと病 果実斑点細菌病	イデクリーン水和剤 (硫黄・銅)	500	200g	—	—	—	F:M1 F:M2

### 【Yes! Clean農薬成分回数基準】

- 防除基準内で発生状況に応じ、**総成分回数で3回まで**使用可能。
- イオウフロアブル、コサイド3000、イデクリーン水和剤は農薬の成分回数としてカウントしない。
- ロータリーによる中耕除草と手取除草のみとし、**除草剤は使用しない。**

### 【土づくり他】

- 土壌診断を実施し、適正施肥を行う。また、完熟堆肥(牛ふん麦稈堆肥:3t/10aまで)の施用を基本とする。
- 土壌改良剤については、前年秋の施用を基本とする。(施用量は土壌診断による)
- 施肥効率の向上と定植初期の生育確保のため、マルチ栽培を実施する。
- 適正輪作の実施。(例:馬鈴薯 → 小麦 → ビート → 南瓜)
- 貯蔵中の腐敗要因である「つる枯病」に弱いので、開花後20～30日後に薬剤散布を実施する。  
(例:5月下旬定植で、7月下旬～8月上旬頃)